

2017年2月23日付 建設通信新聞12面(最終面)

「悪化」回答 12割増え45%

前年同月比でみた商品別売上高と販路別の増減は以下のとおり。増減が上昇したと回答した企業は「電子・バルブ・化成系・電機」がそれぞれ4.8%、「下流」と回答した品目はなかった。
得意案件、支払条件については前月と同様、企業が「変わらず」、資金繰りは55%の企業が「好転」と回答した。「悪化」と回答した企業はなかった。

「悪化」に「悪化」(31.6%)、「悪化」(31.6%)を合わせた「悪化」の割合は43.2%で前月より12.1%増した。
一方、「悪化」に「悪化」(31.6%)、「悪化」(31.6%)を合わせた「悪化」の割合は43.2%で前月より12.1%増した。

工程調整が醍醐味



めるとは日々の作業や現場との交渉が時に大変な仕事。いかに工程がスムーズに進むように調整するかが、新入りの現場監督の醍醐味です。体力的にも精神的にも、慣りの方向に支えていただければ仕事もこなすことができます。今後は設計知識を深めるとともに、施工者の視点に立ちながら設計業務を行いたいと思っています。

尾山 美佳子



入社してから3年間の現場業務を経て、現在は設計部に所属しています。新入りの日々です。現場では大学研究科や自治体の新築工事に携わりました。現場内は男女の状況が変化し、多種多様な人たちと関わり合いながらの仕事となるため、全体工程が滞らないよう仕事を進

敵を知り己を知れば百戦危うからず

最大の結果を出す勉強法

施工管理技士 合格のポイント②

経験のある専門分野に気をとられ、普段あまり馴染みの無い「施工管理法」の対策を怠った結果、不合格になるケースは少なくない。
1級土木施工管理技術検定でいうと、専門分野については34問中、分かる問題を10問解答すればよく、全範囲を学習す

1級土木施工管理技術検定 学科試験 出題数と各出題比率 (2016年度の例)

出題区分	出題数	解答数(A)	解答数に対する比率(A/B)
土木一般	15問	12問	18.5%
専門土木	34問	10問	15.4%
法規	12問	8問	12.3%
共通工学	4問	4問	6.1%
施工管理法	31問	31問	47.7%
計	出題96問	解答65問(B)	100.0%

※学科試験は出題区分により解答数が異なる。

まず合格することを考える

することは受験対策上、無意味である。施工管理技術検定試験は、工事現場を指揮する最高指導者としての資質を問う試験である。
合格後は適正に建設工事を管理し、技術上の指導・監督職務も行うため、必然的に可否の基準は「施工管理法」に相当な比重が置かれることになる。つまり、短期間で合格を勝ち取るためには施工管理法の攻略が最優先となる。

■敢えて満点を目指さない
学習を進める上で陥りやすいことは、満点を目指したり、テキストを網羅的に理解しようとしてしまうことであるが、前述のとおり「施工管理技術検定試験」に効率よく確実に合格する上では非常に無駄である。また、このような学習方法は、非効率なだけでなく、合格から遠くなる可能性がある。
試験勉強に専念できるような学習環境



が整っていれば、このような学習方法でもよいかもしれない。しかし、受験生の多くは学習時間に制限がある社会人であり、網羅しようとする試験当日までに行うべき学習範囲まで到達することができず、結果を残すことができないことも多い。
試験に合格すること、テキストの内容をすべて理解することは全く異なり、ここを勘違いすると合格は難しい。試験は試験と割り切り、「合格するにはどのようにすべきか」のみを考えることが重要である。
(C I C 日本建設情報センター)

前回は、試験傾向を知ることが合格への第一歩ということを述べたが、今回は、施工管理技術検定の傾向を分析していく。国家試験である1級施工管理技術検定は、どの種目においても1次試験である学科試験(四肢択一のマークシート方式)と、2次試験の実地試験(記述式)があり、両方に合格して初めて1級施工管理技士を取得できる。
■まずは学科試験に専念
1級施工管理技術検定の学習方法として、学科試験の対策時も実地試験を意識することで相乗的な学習効果があるといわれることも少なくない。
しかし、四肢択一と記述では問題形式自体が異なり、同様の試験対策で短期的な学習効果を得るのは難しいと思われる。まずは、学科試験に合格しなければ実地試験を受験することさえできない。
学科試験の合格率は横ばいを保っているが、出題内容は難化傾向にあり、決して容易な試験ではないと認識すべきであ